

Cisco TelePresence DX70、DX80 ユーザ ガイド

D1510413 ユーザ ガイド

Cisco TelePresence DX70、DX80

作成日: 2016 年 7 月 (CE8.2)

All contents © 2010-2016

Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



このユーザ ガイドの内容

はじめに

Cisco DX70 について	4
Cisco DX80 について	5

ビデオコール

連絡先リストから発信する	7
連絡先リストのエントリを編集し、発信する	8
名前、番号、またはアドレスを使用して発信する	9
着信	10
通話中に他の通話を着信する	11
通話の切断	12
コールの保留と保留中コールの再開	13
帯域を変更する	14
応答不可を有効にする	15
通話中にキーパッドを表示する	16
既存の通話に参加者を追加する	17
既存の通話に着信コールを追加する	18

コンテンツの共有

通話中にプレゼンテーションを開始/停止する	20
通話中にプレゼンテーション レイアウトを変更する	21

スケジュールされた会議

スケジュールされたミーティングに参加する	23
----------------------------	----

連絡先

お気に入り、発信履歴、およびディレクトリ	25
通話中に [お気に入り (Favorite)] に追加する	26
通話中ではないときに [お気に入り (Favorites)] に追加する ..	27

カメラ制御

セルフビュー PiP を移動する	29
遠端カメラ制御	30

設定

設定の概要	32
-------------	----

目次の項目はいずれもハイパーリンクになっています。ハイパーリンクをクリックすると、対応する記事が表示されます。

サイドバーでいずれかのアイコンをクリックして、章を移動することもできます。

注: このユーザ ガイドに記載されているいくつかの機能はオプションであるため、ご使用のシステムには適用されない場合があります。

3



はじめに



Cisco DX70 について

PC モニタとして使用します。 HDMI ケーブルを使用して、コンピュータを HDMI ソケット (PC) に接続します (以下を参照)。

PC モニタとビデオ画面を切り替えるには、画面をタップします。

着信コールは、[応答不可 (Do Not Disturb)] がアクティブでなければ ([「応答不可を有効にする」](#)、15 ページを参照)、モード (PC またはビデオ) に関係なくいつでもどおりに表示されます。



- ① USB ポート。
- ② HDMI ソケット (PC)。
- ③ HDMI ソケット (外部モニタ、使用しません)。
- ④ LAN 拡張接続。PC LAN をここで接続すると、Cisco DX70 と PC は同じ LAN 接続を共有できます。
- ⑤ LAN 接続。
- ⑥ 電源ソケット。



- ① プライバシー シャッター付きカメラ (閉じる場合は反時計回り、開く場合は時計回りに回します)。
- ② マイクロフォンのミュート ボタンおよびラウドスピーカーの音量コントロール。
- ③ ラウドスピーカー。
- ④ SD カード スロット、およびヘッドセットと USB 用のコネクタ。
- ⑤ 電源オン/オフ。
- ⑥ マイクロフォン。

DX70 は、ミニジャックを使用するヘッドセットと同様に USB ヘッドセットもサポートしています。USB ヘッドセットの詳細については、後続のページを参照してください。

このユーザ ガイドについて

このユーザ ガイドは、DX70 と DX80 の両方に適用されます。2 つのディスプレイはサイズが異なりますが、サイズ以外、画面に表示される画像は同じです。

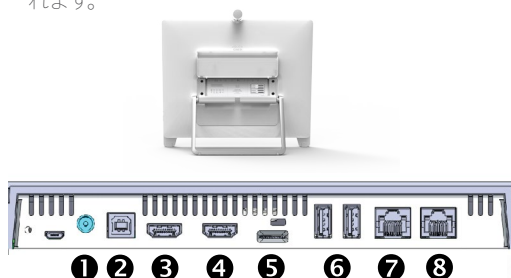
実際には、このガイドで使用されるスクリーンショットは DX80 の図に挿入されています。

Cisco DX80 について

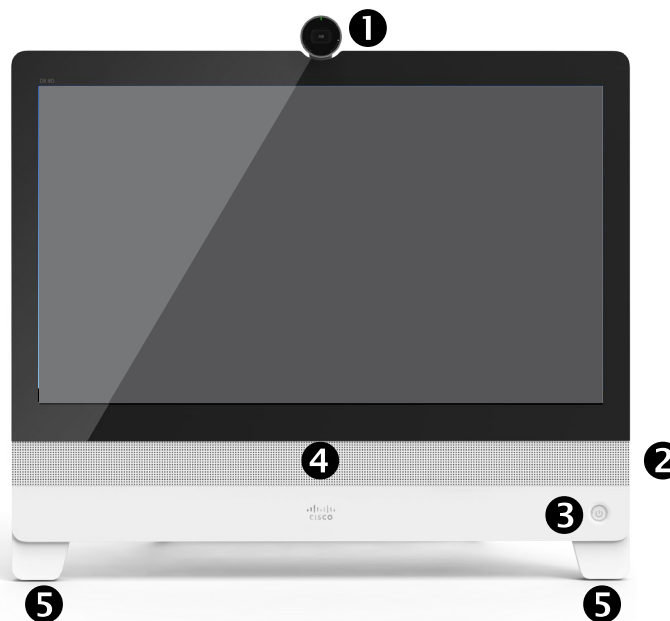
PC モニタとして使用します。 HDMI ケーブルを使用して、コンピュータを HDMI ソケット (PC) に接続します (以下を参照)。

PC モニタとビデオ画面を切り替えるには、画面をタップします。

着信コールは、[応答不可 (Do Not Disturb)] がアクティブでなければ、「[応答不可を有効にする](#)」、15 ページを参照)、モード (PC またはビデオ) に関係なくいつでもどおりに表示されます。



- ① 電源ソケット。
- ② USB (コンピュータ接続)。
- ③ HDMI (コンピュータ接続)。
- ④ HDMI (外部モニタ接続、使用しません)。
- ⑤ SD カード スロットおよび Kensington ロック。
- ⑥ USB ポート
- ⑦ LAN 拡張接続。コンピュータ LAN をここで接続すると、Cisco DX80 とコンピュータは同じ LAN 接続を共有できます。
- ⑧ LAN 接続。



- ① プライバシー シャッター付きカメラ (閉じる場合は反時計回り、開く場合は時計回りに回します)。
- ② マイクフォンのミュート ボタン、ラウドスピーカーの音量コントロール、USB ソケット (ユニットの右側)。
- ③ 電源オン/オフ。
- ④ ラウドスピーカー。
- ⑤ マイクフォン (各脚部分)。

DX80 および USB ヘッドセット

DX80 には、USB 有線オーディオ デバイス用の標準プロトコルが実装されています。

製造者は、それとは別に標準 (HID プロトコルと呼ばれる) を実装できます。

結果として、同じ製造者のさまざまなモデルを別々に動作させることが可能ですが、シスコはすべてのヘッドセットおよびハンドセットが機能することを保証できません。

CE 8.2 について、シスコがテストしたのは有線の

ヘッドセットまたはドングルを使用するヘッドセットのみです。Bluetooth ワイヤレス ヘッドセットはサポートされていません。

提供されたヘッドセットのリストは完全なものではなく、その他多くのヘッドセットも機能する可能性があります。Jabra、Plantronics、および Sennheiser は独自のテストを実行して、DX80 をサポートするヘッドセットの独自のリストも提供しているため、この各社に問い合わせることをお勧めします。

次のヘッドセットはシスコによりテストされています。

- Jabra Evolve 40
- Jabra Evolve 65
- Jabra Pro 9450
- Jabra Pro 9470
- Sennheiser MB Pro 2

このユーザ ガイドについて

このユーザ ガイドは、DX70 と DX80 の両方に適用されます。2 つのディスプレイはサイズが異なりますが、サイズ以外、画面に表示される画像は同じです。

実際には、このガイドで使用されるスクリーンショットは DX80 の図に挿入されています。



ビデオ コール



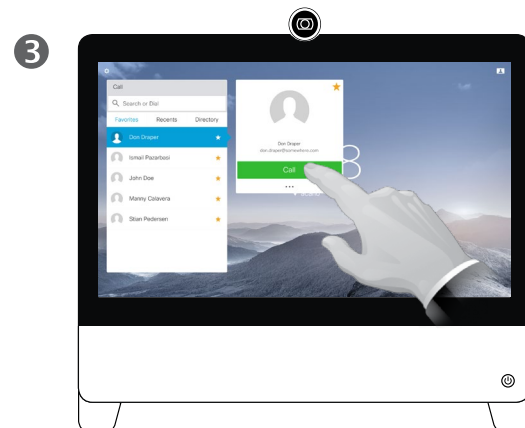
コールの発信 連絡先リストから発信する



1 [発信 (Call)] ボタンをタップします。



2 特定のリスト ([お気に入り (Favorites)], [ディレクトリ (Directory)], または [発信履歴 (Recents)]) で通話相手を検索するには、そのリストをタップし、下へスクロールして発信するエントリを探します。



3 そのエントリをタップすると、緑色の [発信 (Call)] ボタンが表示されます。



4 発信します。通話を終了するには、赤色の [終了 (End)] アイコンをタップします。

連絡先リストについて

連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

[お気に入り (Favorites)] これらの連絡先は、自分でお気に入りとして登録したものです。通常、頻繁に通話する連絡先や、素早く簡単にアクセスする必要がある連絡先を、お気に入りとして登録します。

[ディレクトリ (Directory)] は通常、ビデオ サポート チームがシステムにインストールした社内ディレクトリです。

[発信履歴 (Recents)] は、発信、受信、不在着信のリストです。

次のオプションが適用されます。

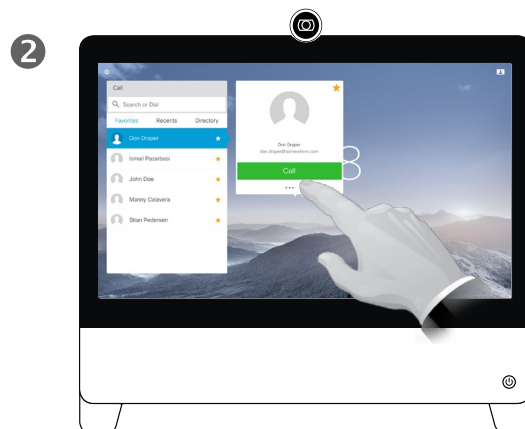
- 名前、番号、または IP アドレスを入力すると、システムが自動的にすべてのリストを検索します。
- [お気に入り (Favorites)] のリストにエントリを追加したり、通話前にエントリを編集したり、帯域を変更したり、エントリを [発信履歴 (Recents)] から削除したりすることができます。

連絡先リストのエントリを編集し、発信する

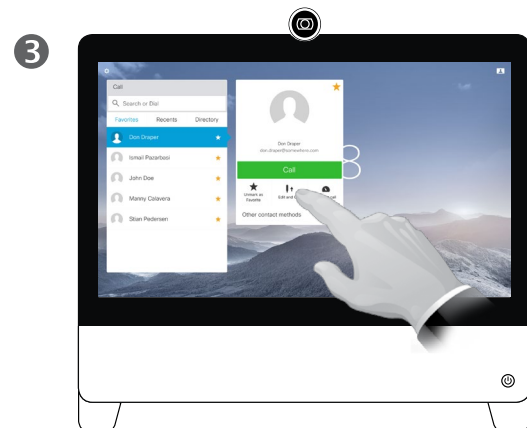
エントリの編集について



コールを発信する前に、編集するエントリを検索します。そのエントリをタップします。[発信 (Call)] メニューが表示されます。



緑色の [発信 (Call)] ボタンのすぐ下にある [詳細 (More)] ([...]) アイコンをタップします。



[編集して通話 (Edit and Call)] をタップします。



キーボードを使用して編集し、緑色の [発信 (Call)] ボタンのいずれかをタップして発信します。

[連絡先 (Contact)] リストの入力方法については、前のページを参照してください。

発信する前に、[連絡先 (Contact)] リストのいずれかのエントリを編集しなければならない場合があります。また、プレフィックスやサフィックスを追加したり、エントリが正しく認識されるように変更したりする場合があります。

名前、番号、またはアドレスを使用して発信する



[発信 (Call)] ボタンをタップします。



[検索またはダイヤル (Search or Dial)] フィールドをタップします。キーボードが起動されます。



名前、番号、またはアドレスを入力します。入力すると、一致する可能性のある候補が表示されます。正しい一致がリストに表示された場合は、その一致をタップします。表示されない場合は、入力が続けます。



発信先を入力または検索したら、緑色の [発信 (Call)] ボタンのいずれかをタップして発信します。

コールの発信について

連絡先のリストに載っていない相手に発信するには、タッチパッドの仮想キーボードを使用して名前、アドレス、または番号を入力します。

以前に通話したことがある相手は、(リストをクリアするまで) [発信履歴 (Recents)] リストに表示されるため、そのいずれも [お気に入り (Favorites)] リストに転送できます。これについては、[連絡先 (Contacts)] のセクションで説明されています。

通話中に、番号の入力を要求されることがあります。これは通常、内線番号にアクセスするためか、暗証番号を入力するためです。

この場合に必要なキーパッドを起動するには、[トーン信号 (Touch Tones)] (このボタンは、発信するとすぐに表示されます) をタップします。

着信 着信



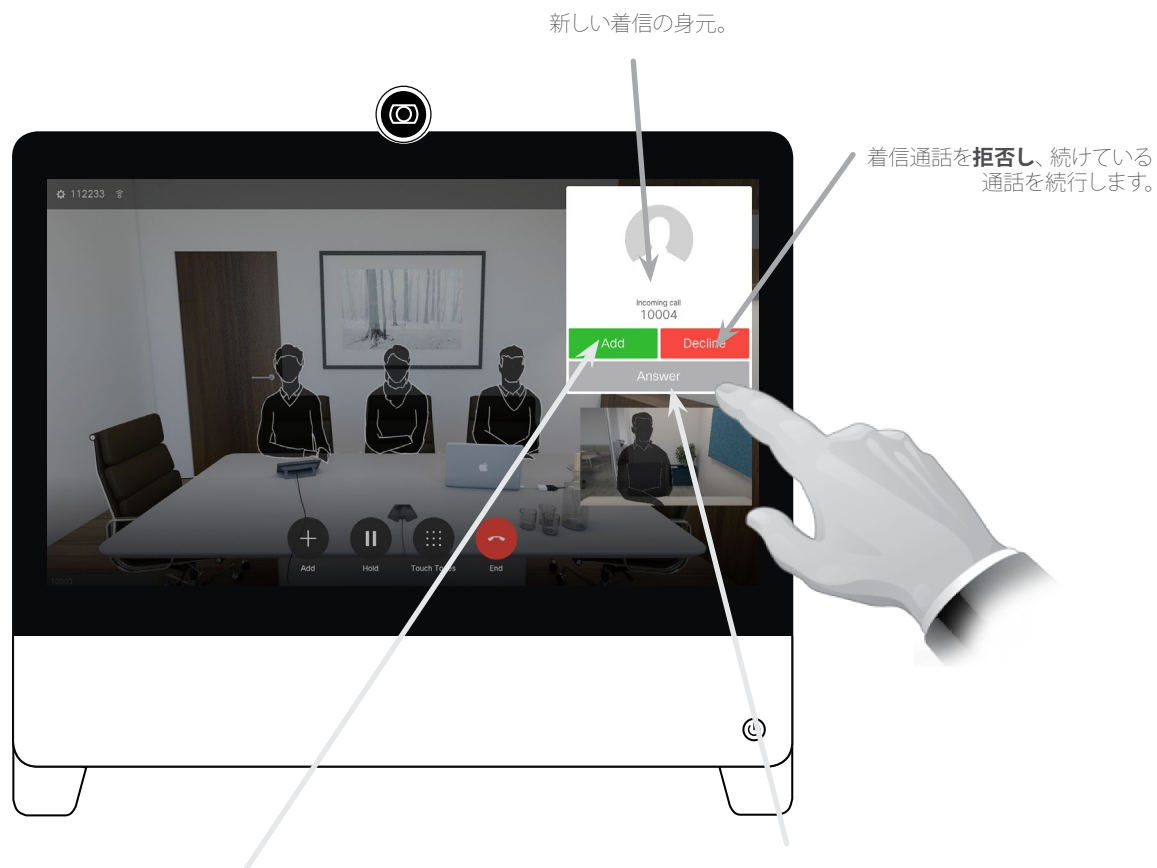
着信コールを受け入れる（応答する）か拒否するかに応じてタップします。

着信があった場合

- 着信があった場合は、通話を許可、拒否、または無視できます。
- 通話を拒否した場合、ビジーであるという情報が発信者に送信されます。
- 通話を無視した場合、発信者は相手が不在である（相手がコールをピックアップしなかった）と認識します。

着信

通話中に他の通話を着信する



[追加 (Add)]: システムが CUCM の下でアドホック会議を実行している場合、着信した参加者を追加できます。

[応答 (Answer)]: 着信に応答して、既存の通話を保留にします。

オプションについて

特定の状況下では、通話中に別の着信を受け入れることができます。



終了 通話の切断



通話を切断するには、[終了 (End)] をタップします。

切断について

通話中に [終了 (End)] をタップすると、通話から切断されます。二者間でのみ通話をしている場合は、通話が終了します。



保留

コールの保留と保留中コールの再開

1



通話状態であるとして、
[保留 (Hold)] をタップし
ます。

2

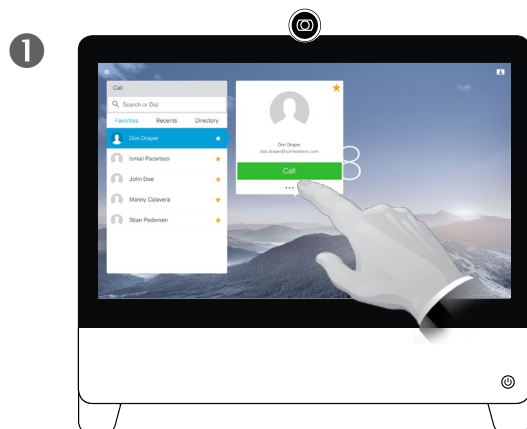


[再開 (Resume)]
をタップして、通話
状態にあった相手
に戻ります (元の
操作に戻ります)。

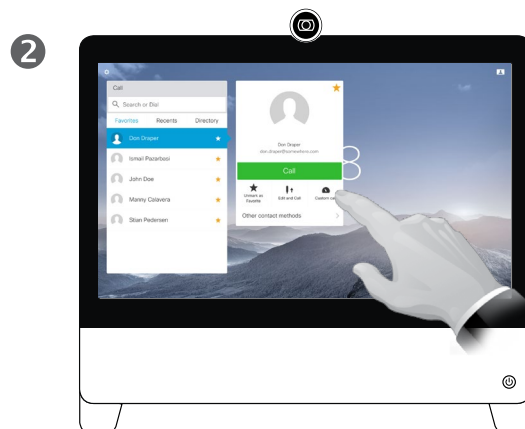
保留について

通常、相手を保留にする操作は、他の人に転送する場合の最初のステップとして行うものですが、打診が必要な場合や、ビデオ送信の停止などを含むミュートの代わりとしても使用できます。

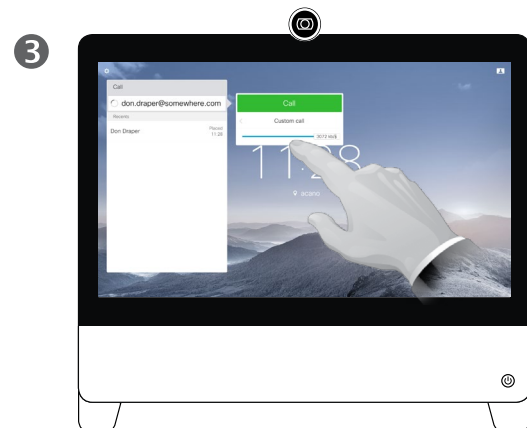
帯域を変更する



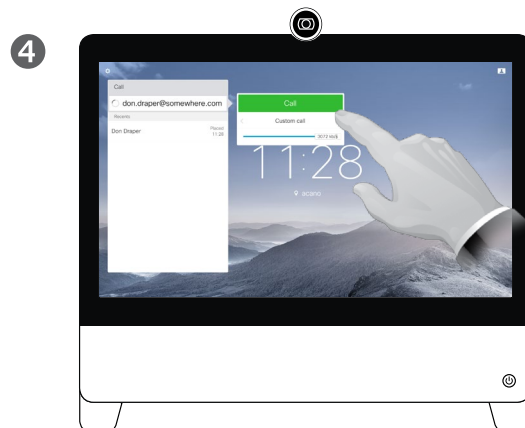
[発信 (Call)] ボタンをタップして、変更する帯域のエントリを検索します。このエントリをタップして [発信 (Call)] メニューを表示し、図のように緑色の [発信 (Call)] ボタンの下にある [詳細 (More)] [...] アイコンをタップします。



[カスタム コール (Custom call)] をタップします。



必要な設定にスライダを移動します。



緑色の [通話 (Call)] ボタンをタップして発信します。

帯域について

帯域は、通話に割り当てられる帯域幅の量を表すための用語で、kbps (キロビット/秒) で測定されます。

帯域を高くするほど音質がよくなりますが、帯域幅使用量の料金も高くなります。

システムにはデフォルトの帯域が用意されています。これは、[管理者設定 (Administrator Settings)] の一環としてビデオ サポート チームが設定します (パスワードで保護)。

この設定を一時的に変更したい理由は何でしょうか? 多くの場合、システムと接続が実際にサポートしている帯域よりも大きい帯域で通話しようとするときにビデオ コールのチョークを避けるために使用します。

通話中に帯域を変更することはできませんが、発信の直前に変更することはできます。ここで概要を説明します。



応答不可を有効にする



図のように、左上隅をタップします。



[応答不可 (Do not disturb)] をタップして、機能を有効にします。無効化するには、もう一度タップします。

応答不可について

着信コールに応答しないよう、システムを設定することができます。ただし、こちらからは必要時にいつでも発信することができます。

ビデオ サポート チームが、この機能のタイムアウトを設定している場合があります。タイムアウト後は、通常のように着信に応答できるようになります。デフォルトのタイムアウト設定は 60 分です。



内線番号と暗証番号の追加

通話中にキーパッドを表示する



通話中に、[トーン信号 (Touch Tones)] をタップしてダイヤルパッドを呼び出します。

通話中のキーパッドの使用

通話中に、内線番号へアクセスしたり、(暗証番号の使用などにより) その他の場所へアクセスしたりするために番号を入力するよう要求されることがあります。

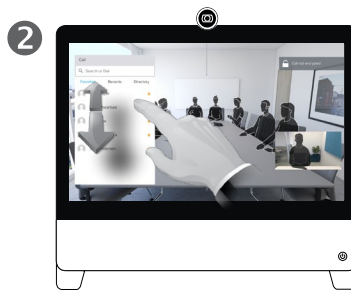
このようにするには、タッチスクリーンにキーパッドを呼び出す必要があります。

参加者が複数いる電話会議

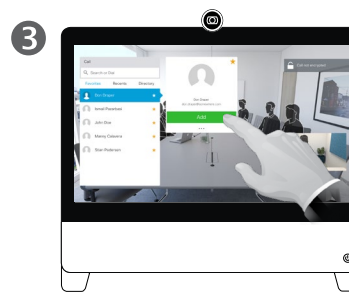
既存の通話に参加者を追加する



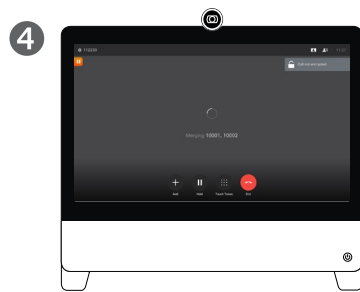
すでに通話状態であるとして、この通話は、あなた、または（あなたに対してコールした）他の人によって開始されています。[追加 (Add)] をタップします。



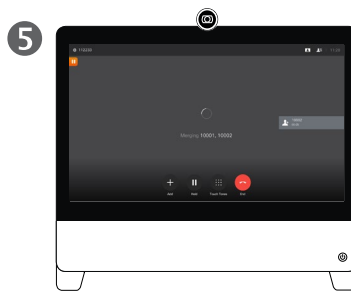
通常の方法で、発信先を探します。



通常の方法で発信します。発信する前にその通話の [通話設定 (Call settings)] を変更できます。詳細については、サイドバーを参照してください。



これで、既存の通話に新しい通話が追加されます。



会議を確立しました。
ビデオ インフラストラクチャで許容される範囲で、この手順を繰り返すことができます。

ビデオ会議について

で使用するビデオ システム ネットワークには、複数の参加者間でビデオ会議を開始する機能が用意されています。

ビデオ システムでサポートされる参加者の最大人数は、システム設定およびビデオ インフラストラクチャによって決まります。これを確認するには、ビデオ サポート チームへ問い合わせてください。

ビデオ会議を開始する場合は、参加者に一人ずつコールする必要があります。

会議を開始した参加者は、会議全体を終了することができます。その他の参加者は、会議から自身を切断することのみ可能です。

通話の設定。 コールする相手が、複数の帯域幅を備えたビデオ システムを所有している可能性があります。すべての参加者を、すべてのシステムがサポートしている帯域幅に設定しなくてもかまいません。システムで利用できる最高の品質を全員に提供するために、[帯域 (Call rate)] はすべての参加者が個別に設定できます。[「帯域を変更する」](#)、[14 ページ](#)を参照してください。

既存の通話に着信コールを追加する



着信通話の追加について

通話状態であるとして、ここで他の着信通話を受信する場合、次のオプションがあります。

- 通話を拒否して、実行していた処理を続行します。
- 既存の通話を保留し、新しい通話を受け入れます。2つの相手先を随時に切り替えることが可能です。
- 着信通話を、(あなたが通話していた人も含めて) 他人へ転送することができます。
- 着信通話を保留にした後で、この通話を既存の通話とマージすることも可能です (オプション機能)。
- 着信コールは進行中の通話に直接マージできます (**追加機能**)。これは、MultiSite が搭載されているシステムでのみ適用されます。



コンテンツ の共有





コンテンツの共有

通話中にプレゼンテーションを開始/停止する



通話中に、ソースを接続して、オンになっていることを確認します。[PC を表示 (Show PC)] をタップして、自分の PC の画面を DX70/80 上にローカルに表示します。このとき、画面に表示される内容は他の参加者には表示されません。



他者と PC の画面を共有しない場合は、[PC を非表示 (Hide PC)] をタップして前の状態に戻ります。共有する場合は、図のように [共有 (Share)] をタップしてコンテンツを共有します。



これで、PC 画面のコンテンツが他の参加者と共有されます。



共有を停止するには、図のように [共有を中止 (Stop Sharing)] をタップします。

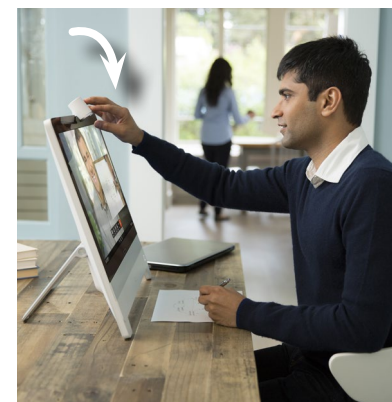
コンテンツの共有について

ビデオ システムは、ビデオ コールまたはビデオ会議でプレゼンテーションを表示する機能をサポートしています。

プレゼンテーション中に画面のレイアウトを変更できます。詳細は次のページを参照してください。

ヒント: システムのカメラは、ドキュメント カメラとして動作させることができます。図のようにカメラを傾げるだけで、システムの前にあるテーブルの上のドキュメントや他の物理的な物体を映すことができます。

カメラはその操作を認識し、自動的にイメージを上下反転します。したがって、期待どおりのイメージが相手に表示されます。





コンテンツの共有

通話中にプレゼンテーション レイアウトを変更する



[レイアウト (Layout)] をタップして、図のようにレイアウト オプションを呼び出します。

2
好みのレイアウトをタップして
選択します。



プレゼンテーション レイアウトについて

プレゼンテーション中に画面のレイアウトを変更できます。通常使用できるオプションは、プレゼンターの表示あり/なし、およびプレゼンターを PiP (ピクチャ イン ピクチャ) か PoP (ピクチャ アウトサイド ピクチャ) のいずれかとして表示する、というものです。

ご利用のシステムで有効なレイアウトオプションは、ここで示されているものと異なる場合がありますが、示されているレイアウトは常にいずれかを選択できます。



スケジュール
された会議





スケジュールされた会議

スケジュールされたミーティングに参加する



ミーティングへの参加

ビデオ会議をスケジュールすることが
できる管理システムに、ビデオ システムを
接続することができます。スケジュール
されているミーティングは、図のように
左側に表示されます。

[参加 (Join)] をタップして、ミーティ
ングに参加します。



連絡先





連絡先

お気に入り、発着信履歴、およびディレクトリ



連絡先リストについて

連絡先リストは、[ディレクトリ (Directory)]、[発着信履歴 (Recents)] および [お気に入り (Favorites)] の 3 つの部分で構成されています。

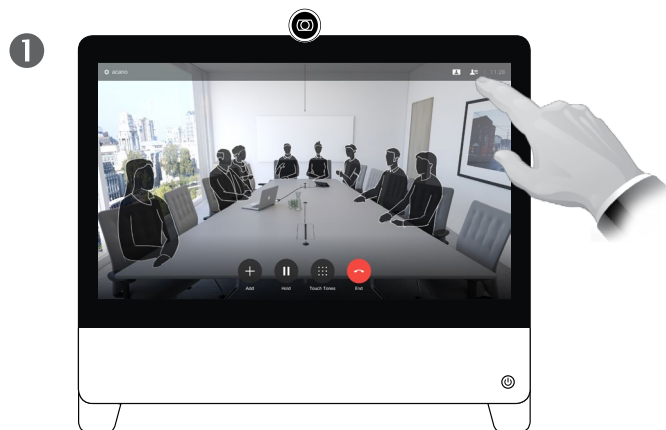
[ディレクトリ (Directory)] は、社内電話帳としての役割を果たします。このディレクトリを編集することはできません。ただし、エントリを [お気に入り (Favorites)] のリストにコピーした上で編集することはできます。

フォルダをタップしてそのコンテンツを表示します。必要に応じて、スクロールしてフォルダやフォルダ内のエントリを探します。

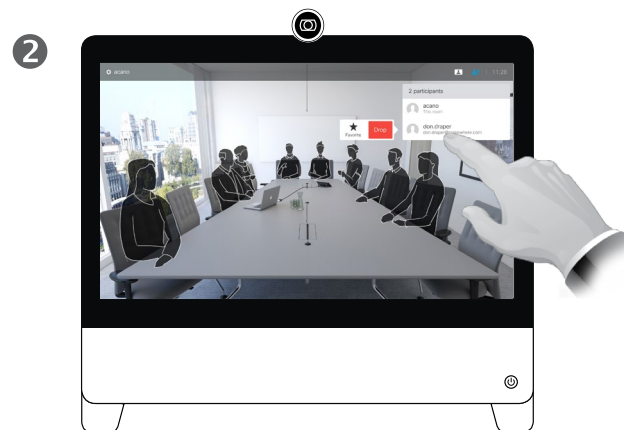
社内ディレクトリ内で検索する場合、検索は現在のディレクトリのフォルダとそのサブフォルダにのみ適用されます。1 つ上のレベルに移動するには、[戻る (Back)] をタップします。検索を社内ディレクトリ全体に適用する場合は、検索を開始する前に、フォルダを入力 (タップ) しないでください。

ディレクトリからお気に入りのリストにコピーしたエントリが、その後ディレクトリ内で更新されることがあります。この更新はお気に入りのリストに反映されません。この場合は、お気に入りのリストで、該当のエントリを手動で更新する必要があります。

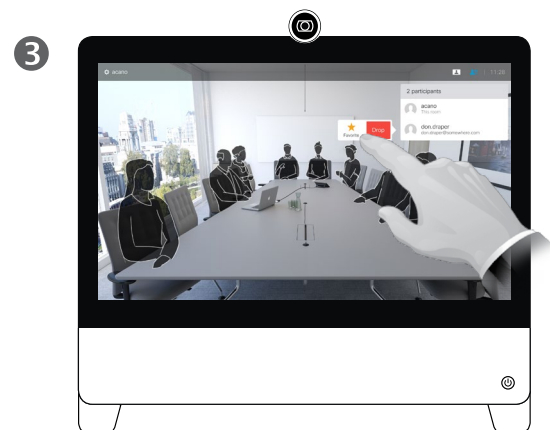
通話中に [お気に入り (Favorite)] に追加する



通話中に、図のように右上隅の [参加者 (Participants)] アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



[お気に入り (Favorites)] に追加する参加者をタップします。小さいメニューでその参加者をドロップする (その参加者を終了する) か、お気に入りリストにその参加者を追加することができます。



[お気に入り (Favorites)] をタップします。

お気に入りについて

[お気に入り (Favorites)] は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

[お気に入り (Favorites)] は、[発着信履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。

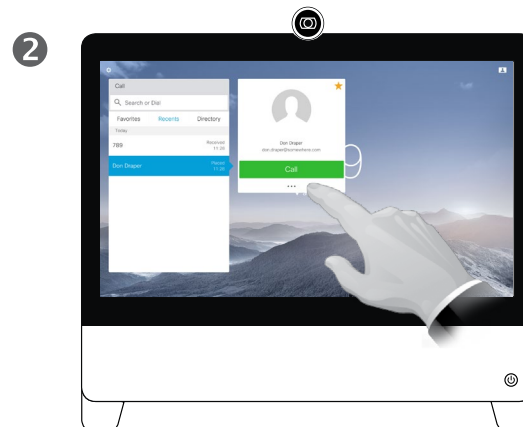


Contacts

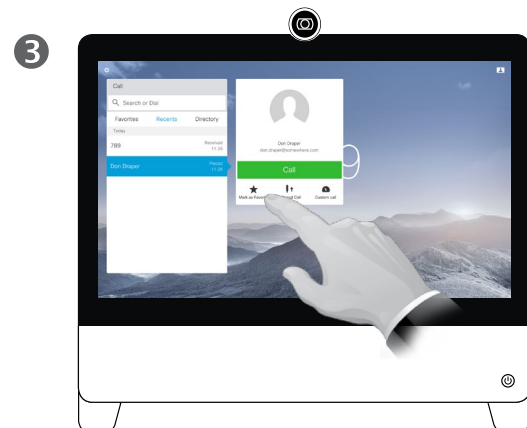
通話中ではないときに [お気に入り (Favorites)] に追加する



通話中ではないときに、図のように [発信 (Call)] (表示されません) をタップして、[連絡先 (Contacts)] リストを呼び出します。[発信履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] をタップして、[お気に入り (Favorites)] に追加するエントリを検索します。



[お気に入り (Favorites)] に追加する参加者をタップします。緑色の [発信 (Call)] ボタンの下にある [詳細 (More)] ([...]) アイコンをタップします。



[お気に入りに設定 (Mark as Favorite)] をタップします。これで、エントリが [お気に入り (Favorites)] に追加されました。メニュー以外の場所をタップして終了します。

4 [お気に入り (Favorites)] リストからエントリを削除するには、[連絡先 (Contact)] リストの [お気に入り (Favorites)] に移動して手順を繰り返します。

[お気に入りに設定 (Mark as Favorite)] ボタンは、[お気に入りに設定しない (Unmark as Favorite)] に変わります。

この機能について

[お気に入り (Favorites)] は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

[お気に入り (Favorites)] は、[発信履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。

[お気に入り (Favorites)] リストに手動でエントリを追加するには、「名前、番号、またはアドレスを使用して発信する」、9 ページの説明に従って [検索 またはダイヤル (Search or Dial)] フィールドに名前またはアドレスを入力します。



カメラ 制御



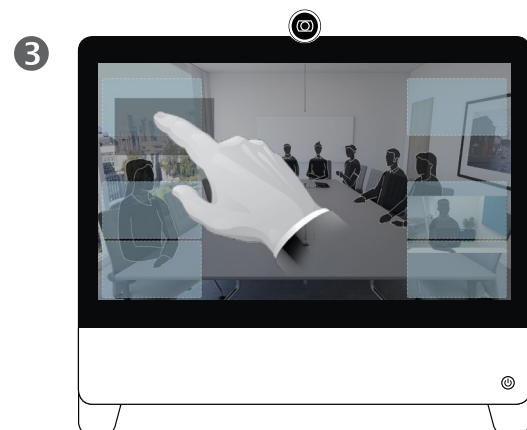
セルフビュー PiP を移動する



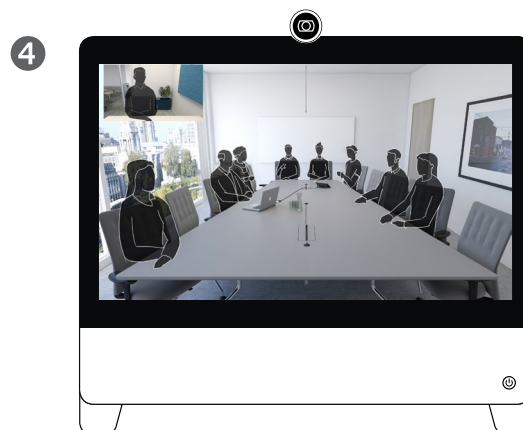
セルフビュー画像をタップして、長押しします。



セルフビュー画像を表示できる別の位置が示されます。そのまま画像を押し続けます。



画像を新しい位置にドラッグします（ここでは左上隅に表示します）。



画面から指を離して、画像を放します。これで、セルフビュー画像が新しい位置に表示されました。

セルフビューを移動する理由

セルフビューは、他の参加者に表示される画面です。通常は、こちらが意図しているとおりに他の参加者に見えているかを確認するためにセルフビューを使用します。

セルフビューは、PiP（ピクチャ イン ピクチャ）として表示されます。

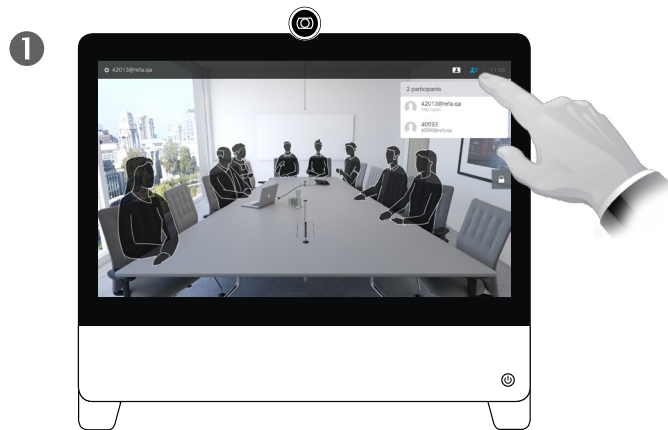
会議中に、セルフビューをアクティブにしたいときがあります。たとえば、セルフビューを使用すると、自分が画面に表示されていることを確認できます。

セルフビューの位置により、画面上の画像の重要な部分が見えなくなる場合があります。このような場合は、セルフビューを移動できます。

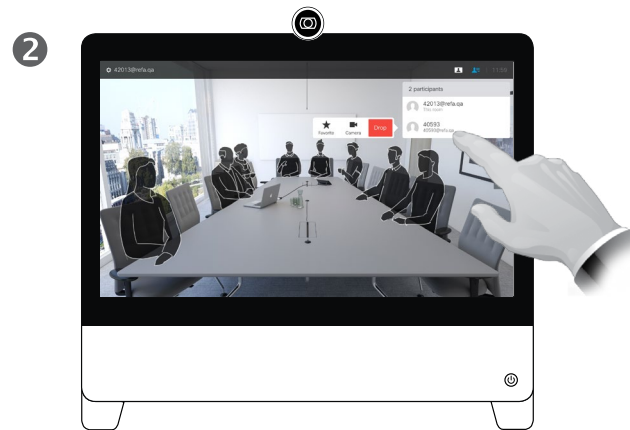


カメラ

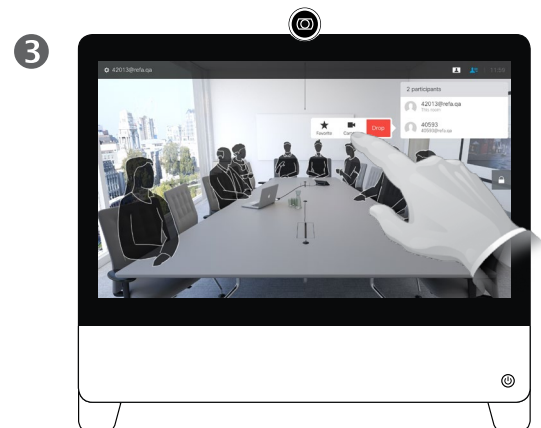
遠端カメラ制御



図のようにタップして、参加者のリストを呼び出します。



カメラを制御する参加者をタップします。制御できないカメラでは、制御オプションは表示されません。



選択した参加者の [カメラ (Camera)] をタップします。



必要に応じてカメラを調整します。遠端カメラ制御を終了するには、カメラ制御以外の部分をタップします。

カメラ操作について

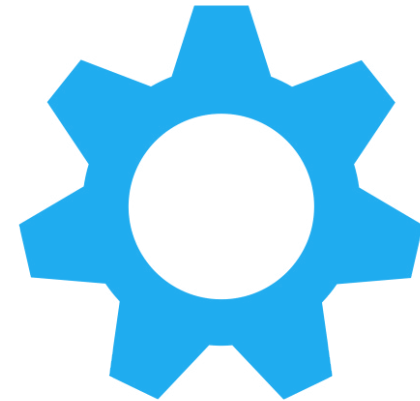
1 つまたは複数のその他のビデオ システムにリモートで制御可能なカメラがある場合に、ビデオ コールを実行できます。

自分のビデオ システムからこれらのカメラを制御できます。これは、遠端カメラ制御 (FECC) と呼ばれます。

遠端システムで (カメラが通話相手を追跡および表示するときに実行する) カメラ トラッキングが有効になっている場合、FECC のオプションは提供されません。



設定





このメニューを表示するには、左上隅の小さいアイコンをタップして、[システム情報 (System Information)] をタップします。ここには、DX70/DX80 の状態の概要が表示されます。また、このビューの [設定 (Settings)] をタップすると 1 つ深いレベルに移動することもできます。

次の設定にアクセスできます。

- 言語設定
- タイムゾーン設定
- ネットワーク接続設定
- サービス アクティベーション設定
- 工場出荷時の状態へのリセット
- 拡張ロギング

©2016 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、および Cisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。

本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1502R)

この資料の記載内容は 2016 年 12 月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。

お問い合わせ先



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>